株主通信
第110期 事業報告

2019年4月1日から2020年3月31日まで

kitagawa
株式会社 北川鉄工所
証券コード:6317

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜わり、厚くお礼申し上げます。当社グループは2020年3月31日をもちまして第110期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)が終了いたしましたので、当連結会計年度の事業概況についてご報告申し上げます。

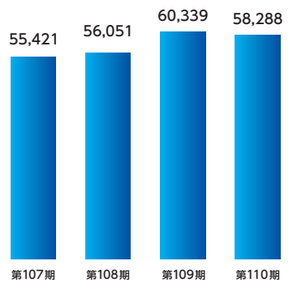
当連結会計年度におけるわが国の経済は、消費税増税前の駆け込み需要や雇用環境の改善を背景に第3四半期まで回復基調が続いてまいりました。一方、国外では米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題の長期化に加え、2019年末から新型コロナウイルス感染症の拡大により世界経済が不安定となり、国内外ともに景気の先行きが不透明な状況で推移しました。

このような状況のもと、当社グループでは、2018年4月より社内カンパニー制へ移行して、事業セグメントごとの成長を志向し、設備投資、新商品開発、顧客接点の拡大など、事業の独自性を活かした戦略を積極的に展開してまいりました。株主のみなさまには引き続きご理解とご支援を賜りますとともに、今後とも末永くご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

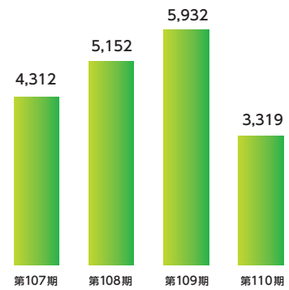
代表取締役会長兼社長　北川 祐治

連結決算ハイライト

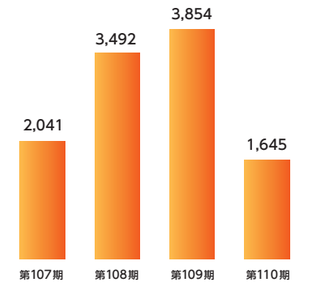
連結売上高(百万円)



連結経常利益(百万円)



連結当期純利益(百万円)



会社の概況(2020年3月31日現在)

商号	株式会社北川鉄工所(英文名:Kitagawa Corporation)
本店所在地	広島県府中市元町77-1
設立	1941年11月28日
資本金	86億4千万円
従業員数	1,404名
事業内容	金属素形材事業、産業機械事業、工作機器事業

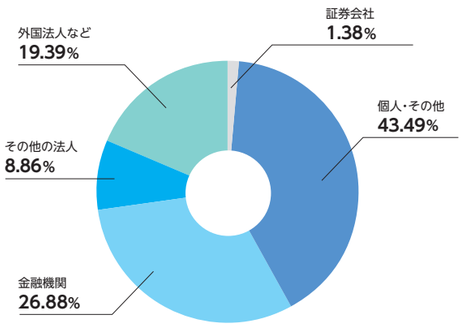
役員(2020年6月19日現在)

代表取締役会長兼社長	北川祐治	取締役　執行役員	近藤正樹
代表取締役副会長	北川　宏	取締役(社外取締役)	沼田　治
取締役　常務執行役員	北川日出夫	取締役(社外取締役)	内田雅敏
取締役　常務執行役員	畑島敏勝	常勤監査役	野上武志
取締役　常務執行役員	栗本和昌	監査役(社外監査役)	貝原潤司
取締役　執行役員	佐藤　靖	監査役(社外監査役)	平　浩介
取締役　執行役員	宇田育造		

株式の所有者別状況

発行可能株式総数	普通株式	30,800,000株
発行済株式の総数	普通株式	9,650,803株
株主総数		9,796名

株式の所有者別状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
北川鉄工所みのり会	559	5.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	521	5.57
株式会社広島銀行	446	4.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	336	3.59
みずほ信託銀行株式会社	230	2.46
MSIP　CLIENT　SECURITIES (常任代理人　モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社)	219	2.34
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人　シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	198	2.12
北川鉄工所自社株投資会	195	2.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	184	1.97
朝日生命保険相互会社	171	1.83

(注)1　当社は自己株式(287,794株)を保有しておりますが、上記大株主から除いております。
　　2　持株比率は自己株式(287,794株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中旬から下旬
剰余金の配当基準日 配当金受領株主確定日	期末配当　3月31日 中間配当　9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社 みずほ証券株式会社
お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社　証券代行部 電話　**0120-288-324**(通話料無料) ※土・日・祝日を除く9:00～17:00
公告方法	当社ホームページにて電子公告しますが、やむをえない事由によって電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載して公告いたします。

住所・氏名の変更、配当金の受領方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求等の手続きのご案内

株主様が口座を開設されている証券会社にお申出ください。なお、特別口座に記録された株式に関するお手続きにつきましては、特別口座管理機関であるみずほ信託銀行(左記のお問合せ先)にお申出ください。みずほ信託銀行国内本支店(トラストラウンジを除く)及びみずほ証券国内本支店(プラネットブースを含む)においてもお取扱いいたします。

未払配当金の支払いに関するお問合せ先

みずほ信託銀行及びみずほ銀行の国内本支店にてお取扱いいたします。また、みずほ証券国内本支店にてお取次ぎのみ可能です。

特別口座をご利用の株主様へ

特別口座に記録されている株式は、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買ができません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。お手続きについては、特別口座管理機関であるみずほ信託銀行(左記のお問合せ先)にお問合せください。

インターネット上で、いつでも最新のkitagawa情報をご覧いただけます
https:// www.kiw.co.jp /

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用　UD FONT　VEGETABLE OIL INK

セグメント別の概況

キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニー

国内外の生産拠点間での連携強化を図り、当社の強みである素材開発から機械加工までの一貫生産体制を活かし自動車トランスミッション部品を中心とした高付加価値部品の新規受注に努めました。海外拠点では、次期モデルチェンジに向けて積極的に受注活動を行いました。また国内では福山工場加工ラインにおける自動車トランスミッション部品の安定的な生産及びライン増設を進めてまいりました。これらの取り組みに加えて生産性を高めることによって収益性の改善に努めてまいりましたが、市場環境の悪化の影響が大きく、売上・利益面ともに前年度比で減少しました。

●売上高と営業利益（百万円）

売上高	営業利益
第110期 27,531	第110期 297
前期比 5.7%減	前期比 81.3%減

キタガワ サン テック カンパニー

プラント事業では、品質や納期対応力の向上を図るために商品の標準化を進めたことに加えて、既存設備の更新やメンテナンス工事に積極的に対応しました。荷役機械関連事業では主力であるタワークレーンの安定的な受注に加え、新たに特殊大型クレーンであるダム建設用クレーンを納入しました。自走式立体駐車場事業では、ロングスパンタイプの商品開発に加えて、消費税増税前の駆け込み需要や商業施設・企業向け駐車場を受注することができました。その結果、カンパニー全体としては前年度の売上高及び営業利益を上回りました。

●売上高と営業利益（百万円）

売上高	営業利益
第110期 21,160	第110期 2,597
前期比 15.6%増	前期比 19.9%増

キタガワ グローバル ハンド カンパニー

主力商品であるパワーチャックの高付加価値商品として開発した次世代標準チャックBRシリーズを市場に投入しました。また、積極的な営業活動を展開するために国内外の主要展示会へNC円テーブルMK350や薄型2爪平行グリッパなどの新商品を発表しました。さらに、ロボット分野などの新たな市場領域に参入するために、システムインテグレータやロボットメーカーに対してアプローチを行ってまいりました。しかしながら、国内外ともに企業の設備投資意欲が低下したことによって需要が伸びず、当事業は売上・利益面ともに厳しい状況で推移しました。

●売上高と営業利益（百万円）

売上高	営業利益
第110期 8,886	第110期 915
前期比 27.2%減	前期比 63.1%減

トピックス

NDマーケティング大賞を受賞

当社代表取締役会長兼社長の北川祐治はNDマーケティング大賞を受賞いたしました。本賞は、「月刊生産財マーケティング」の創刊20周年を記念し、1984年にニュースダイジェスト社が制定したもので、金属加工機械業界を中心とした生産財分野の優良企業とその経営者が対象であり、毎年数千社の企業のうち傑出したマーケティング活動を展開して成果を収めた1社のみが選出され表彰される、大変に名誉ある賞です。

受賞に際し、選考委員会から次のようにコメントいただきました。「バランスの取れた3つの事業で会社を運営し、それぞれが高いレベルにありながら成長を続けている点などを評価いたしました。」その他にも、受賞の理由としては「地域に根付きながらグローバル化を進めている。」、「新規事業への積極的な挑戦を行っている。」、「カンパニー制を導入し、各事業の責任を明確化したことで、企業としての安定性が高まっている。意思決定のスピードも増し、海外でのサービスも良くなってきたと感じる。」などと評価いただいております。

1月10日に名古屋で開催された「FA業界新年賀詞交歓会」において、当社会長の北川が受賞講演を行い、2001年の社長就任時からの様々な改革の取り組みを紹介させていただきました。このたびの受賞により、同会に出席された約750名の業界の経営トップの方々をはじめ多くのみなさまに、当社が大切にしている「4つの価値観」や当社の経営の在り方を知っていただくことができました。

業界初タワークレーンの3次元自動運転システムを開発

キタガワ サン テック カンパニーは業界初となるタワークレーンの3次元自動運転システム「OPUS1」を開発いたしました。

タワークレーンの操作は、巻上、起伏、旋回、触れ止めなどの操作を複合的に行うことが要求されるため、オペレーターには豊富な経験と高度な操作技術が必要になります。そのため、建設現場ではオペレーターの作業負荷や高度な技量を持ったオペレーターの確保が大きな課題となっています。

このたび開発した「OPUS1」は、オペレーターがタワークレーンをリアルタイムで操作することなく、吊荷を目標位置へ正確に移動させることが可能となるシステムです。これによって、オペレーターの作業負荷が軽減されると同時に、安全管理に集中できるようになるため、建設現場の安全性が向上します。

「OPUS1」は今後、製造・販売するタワークレーン「ビルマン」シリーズに幅広く展開し、建設現場へ導入していきます。また、今後も開発をすすめて、熟練オペレーター並みの移動スピードとさらなる停止精度の向上を目指してまいります。